

新しい出会いの中で

錦織 優理

私が西脇市で住み始めてもうすぐ4年が経とうとしています。就職を機に引っ越してきた私にとって、西脇市は縁もゆかりもない場所。右も左も分からず、不安や孤独と闘う日々が続きました。そんな私を救ってくれたのが様々な人との出会いでした。まずは同じ職場の方々です。その頃の私はきつととても弱っているように見えたと思います。私の気持ちを察して明るく声を掛けてくれ、このスーパ―がお得、あそこの店は美味しいなど役に立つことを多く教えてくれました。そんな些細な心遣いがとても温かく励みになりました。

少しずつ新生活に慣れてきた頃、私はある人と出会いました。それが今の主人です。職場の先輩の繋がりで出会った彼は、私をいろいろな場所へ連れていってくれました。それまでの私はどこにいても慣れない道、知らない人ばかりで、周囲からよそのものに思われているような気がしていました。彼はそんな私の不安をかき消すかのように、一つひとつ思い出の場所を増やしていってくれました。ある連休のことです。実家に帰省して西脇市に戻ってきた時、車の外の景色を見て、私は初めて「帰ってきた」という思いになったのです。自分の居場所はここなんだと感ずることができました。いつも見ていた景色が全く違って見えた日でした。

その後私は結婚し、子どもを授かりました。仕事に家事に、子育てと目まぐる

しく過ぎる日々の中で、新しい出会いもありました。アパートの隣人と日々の挨拶をきっかけに仲よくなったり、子育てふれあいセンターや産婦人科で知り合ったお母さんと後に連絡を取り合う仲間になったりもしました。いろんな人に支えられて、今の私があると実感しています。

今のご時世、コロナウイルスの流行や、不気味な事件が多発していることで、人との繋がりが薄くなってきたのが現状です。皆新しい出会いを拒み、知らない人との関わりを避け、自分や大切な人を守るようにして生きているように感じます。でも私は西脇市に引っ越してきて、多くの方の存在に救われました。誰かと繋がりが合うことは自らの人生を豊かにするだけでなく、自分がその場所ですべて生きている証にもなるのだと身をもって体験しました。もともと人との出会いとはかけがえのないものであり、素晴らしいことなのだ。今を生きる少しでも多くの人たちが感じられる世界になればと思います。

私の母は、昔からよく「人との縁を切ることのないよう、繋がりを大切にしない」と言っていました。今はその意味がよく分かります。過去の私のように、不安や孤独を抱えながら生きている人はきつと多くいると思います。自らの出会いや繋がりの中で、そうした人たちに少しでも手を差し伸べられる人でありたいです。そうして、人と人が助け合って生きる世の中になっていくことを願っています。